広島県立美術館・縮景園 案内図

県立美術館

- **開館時間**
  9時～17時
  ※金曜日は、開館時間延長
- **休館日**
  月曜日、年末年始
  ※特別展会期中・祝日・振替休日を除く
- **入場料（所蔵作品展）**

一般	510円
大学生	310円
高校生以下	無料
65歳以上	無料

※特別展は各展覧会ごとに設定

縮景園

- **開園時間**
  （4月～9月）9時～18時
  （10月～3月）9時～17時
  ※春・秋に夜間特別開園あり
- **休園日**
  12月29日～31日
- **入園料**

一般	260円
高・大学生	150円
小・中学生	100円
65歳以上	無料

見頃

- 梅（1月下旬～3月上旬）
- 桜（3月下旬～4月上旬）ライトアップイベントあり
- 桃（3月下旬～4月上旬）
- 紅葉（11月上旬～11月下旬）ライトアップイベントあり

北門（通用口）
調馬場
梅林
夕照庵
古松渓
明月亭
白龍泉
積翠巌
駐杖榻
超然居
水心島
濯纓池
慰霊碑
京橋川（旧神田川）
祺福山
跨虹橋
霊迹壇
看花榻
香菜圃
大銀杏（被爆樹木）
有年場
迎暉峰
竹林
悠々亭
銀河渓
桜花巷
清風館
薬草園
竹林
レストラン
美術館前芝生広場
入館券売場
※縮景園の入園券も購入できます
図書室
情報ギャラリー
ミュージアムショップ・カフェ
総合受付
美術館 出入口
※ここから美術館に出入り出来ます
美術館入口
エントランスプラザ
駐輪場
駐車場入口
売店「泉水亭」
芝生広場
清風池
ボタン園
入園券売場
表門
東門（通用口）
縮景園 出入口

3階 特別展
　ティールーム
2階 所蔵作品展
1階 カフェ
　レストラン
地下 県民ギャラリー

美術館地下駐車場　高さ制限　1.7m　乗用車　45台

縮景園駐車場（表門前）　高さ制限　なし　乗用車　29台　バス　3台

コース案内

- A じっくりコース（基本順路50分）
- B ショートコース（西回り・30分）
- C ショートコース（東回り・30分）
- 車椅子での移動が可能な園路
- 撮影スポット

広島県立美術館 主な所蔵品

ライオネル・ファイニンガー「海辺の夕暮」

伊万里柿右衛門様式色絵馬

霞光「帽子をかむる自画像」

児玉希望「春昏」

縮景園のあゆみ

泉水屋敷の築成

江戸時代の大名たちは国元の居城やその近く、または江戸屋敷に、広大な庭園を造り茶室建築などを建てる風潮があった。広島入国翌年の1620年(元和6)から「泉水屋敷」の築成にとりかかった。作庭者には、浅野家の家老であり、千利休の系譜を引く茶人でもある上田主水正重安(号は宗箇)が起用された。縮景園はいわゆる大名庭園の先駆けとして注目される。

築園当時の姿

宗箇が作庭した当初の姿は、園は御泉水と称し、池の中央に長い欄干橋を架け、橋の対岸には山を築き、橋の左右に一対の島を配し、橋の袂に数寄屋を設けていた。現在のような植え込みは少なく、築山はほとんどが芝生の山で、数寄屋などの周りには砂利を敷いていた。木々の茂みが少なく砂利敷きであったのは、敵の侵入がすぐ分かるようにとの目的だったと考えられる。宗箇時代の庭にはまだ戦国時代の意識が見てとれるが、全体としてはのびやかで、限りなく眺望の開けた庭園であった。

宝暦の大火

6代藩主・宗恒の治世の1758年(宝暦8)4月、広島では開府以来の大火災が発生した。

この時に縮景園も火に覆われ、建物の多くが消失した。のちの7代藩主・重晟が元服した年のことであった。

天明の大改修

重晟の治世になり、建物の復旧、園域の拡張が行われる。さらに、1783年(天明3)12月から、1788年8月にかけて、尾道出身で京都の庭師・清水七郎右衛門を招き大改修を行った。

改修の中心は、のちに「跨虹橋」と名付けられる橋の建設であった。一度築いたものを取り壊し、二度目にようやく重晟の満足するかたちが得られたという。「悠々亭」もこの時移築された。「積翠巌」も七郎右衛門の手によるものである。

この改修により、今日見る縮景園はほぼ完成した。濯纓池を口の字に六小10余の島々、複雑な水際に架かる様々な橋、四阿や茶室など、変化に富んだ景勝を楽しむ本格的な池泉回遊式庭園へと一新された。

広島県への移管と名勝指定

明治になっても広島を訪れる名士や文人墨客などは、縮景園に立ち寄っていたが、一般県民は自由に出入りすることにできなかった。1913年(大正2)、園内に観古館(現在の広島県立美術館の位置)が設けられ、浅野家所蔵の書画・古文書・武具・茶器その他を陳列し、一般公開が始まった。

浅野家は1939年(昭和14)広島県に縮景園と観古館の寄贈を申し出て、県は翌年正式にこれを受納した。個人の財産から県の財産になったため、縮景園は広く県民へ公開されることとなった。1940年(昭和15)7月、名勝の指定を受け、園の保存と活用をはかることになった。そのわずか5年後の1945年(昭和20)8月6日、原子爆弾の投下により壊滅的な被害を受けてしまう。

戦後の復旧整備

戦後になり、縮景園の復旧が始まったのは1949年(昭和24)のことである。濯纓池のヘドロさらい、瓦礫・雑草の除去に始まり、樹木の植栽、橋梁の修築、魚の放養などを計画的に進めていった。一応の体裁を整え、施設は未完成のまま、1951年(昭和26)から再開園した。次に園内の建造物の復元に着手し、正門、清風館、悠々亭、看花榭、夕照庵、超然居、明月亭が復元された。

スタンプ欄

茶会案内

園の行事として、四季折々のお茶会が開催されており、誰でも気軽に楽しむことが出来ます。

1月	大福茶会	7月	七夕茶会
2月	梅見茶会	9月	敬老茶会
3月	桃見茶会		観月茶会
4月	観桜茶会		(9月か10月)
5月	茶摘茶会	11月	菊見茶会
6月	しょうぶ茶会		もみじ茶会
	田植え祭り(茶会)		

○JR広島駅から約900m　○市内電車・バス「縮景園前」下車

広島県縮景園

〒730-0014 広島市中区上幟町2番11号
TEL (082)221－3620／FAX (082)221－0515

広島に色づく江戸文化の香り

名勝 縮景園

広島県縮景園
題字 森井一幸

SHUKKEIEN

清風館　せいふうかん

数寄屋風書院造りで屋根は柿葺きになっている。東側に花頭窓を設け、西側は優雅な書院造りの様式を備える。内部は清風之間、老松之間、次之間、玄関之間、茶室、水屋之間を持つ。鬼瓦に浅野家の裏紋とお汪し き桔梗の紋が入っているのが興味深い。

悠々亭　ゆうゆうてい

茅葺きの四阿で、古くは歌会や結演茶会などで使用されていた。亭前は水がもっとも開け、**涸滝島**・緑亀島などを前方に望む。

明月亭　めいげつてい

内部には茶室、控之間、水屋之間、玄関之間がある。数寄屋造りで、一部書院造りの様式を持つ。屋根は茅葺き、庇は柿葺きである。窓枠に牛車の車輪を用いたデザインで数寄を凝らしている。

跨虹橋　ここうきょう(俗称：太鼓橋)

天明の頃(1783～1788) 7代藩主 浅野重晟が京都の友飾 清水七郎右衛門に造らせたものである。地上と天上を結ぶ虹に例えられているため、橋がえき く反っている構えになっている。

踏木門　ふみきもん

園の正門。
冠木を2柱の上方に渡した屋根のない門。

白龍泉　はくりゅうせん

滝となれば流れ、あたかも白い帯が伏せているかのような形の曲水で流水は三段の滝に注いでいる。

看花榭　かんかしゃ

古くは、この場所から座ったまま で、北は太田川を行き来する多く の船や借景としての山々や神社仏閣、南は遠く広島湾の島々が望まれるよう、座面のロク ロ式回転するような造作がされていた。(榻とは腰掛けのこと)

超然居　ちょうぜんきょ

園内最大の島。観瀾・洗心の両橋で結ばれた人里を離れた静寂な場所を表している。周辺の植栽は、上田宗箇の作意的な意思を尊重し大改修でも、ここは手を加えなかったと言われている。

積翠巌　せきすいがん

石組は蓬莱云鶴石組、三尊石組、枯滝石組とも呼ばれる。清水七郎右衛門による改修ときされる。

霊迹壇　れいせきだん

堂内の仏像は平安時代後期頃の作とされる寄木造りの十王像であるが、江戸時代に神田川の大洪水の際、園内に漂着した3体の像のうちの1体で、他の2体は原爆で焼失した。

浅野家系図

浅野家は豊臣政権下で功を立て、大名となった浅野長政を始祖とし て、次男・長晟の時代(1619年)に広島に移封されました。

- 始祖 長政
  - 次男(安国→赤穂藩) 長重 ながしげ
    - 長直 ながなお 赤穂藩 2代
      - 長友 ながとも 4代
      - 長治 ながはる 3代
    - 分家(三次藩) 宣norio 広島藩 初代
      - 阿久利姫(浅野姫) あくりひめ 3代 ═ 長矩 ながのり
      - 長晟 ながあきら 5代
  - 宗家(広島藩) 幸長 ゆきなが 光晟 みつあきら 2代

次藩となります。忠臣蔵でお馴染みの赤穂浪野藩主であり、その長矩の7代目の阿久利姫(浅泉院)が嫁いでいます。

縮景園 略年表

1619	元和5	浅野長政が芸備42万5千石を与えられ、広島に移封
1620	元和6	泉水屋敷の築庭にとりかかる
1650	慶安3	上田宗箇没す
1655	明暦元	浅野光晟、園内の築飾窓を二楽山麓吟月邸へ移す
1665	寛文5	黒川道祐「芸備国郡志」に「泉水殿」の記述
1697	元禄10	浅野綱長、息邸の風呂屋を撤去
1713	正徳3	浅野吉長、園内に稲荷神社を勧請
		吉長、寄福山なだり所の名称をつける
		『蕗満園記』『蕗景園記』
1758	宝暦8	広島市街大火、縮泉園にも及ぶ
1760	宝暦10	浅野重晟、園の復旧に努める
1764	明和元	泉水廟建替の地鎮祭執行
1783	天明3	京都の庭師・清水七郎五衛門による大改修(～1788)
1791	寛政3	数寄屋建築を広島へ「御小堀取」と呼ぶ
1800	寛政12	福原舜井正一位の神階を授かる
1804	文化元	重晟、園内名勝36景の名称を額泉水、梅園太鼓、岡崎山らに付けさせる
1806	文化3	重晟が「縮泉園記」、加藤宣喜に「縮景裏之和歌」の執筆を命じる
1807	文化4	頼春水「陶縮泉園詩五首」を詠む
		牛田清六分から藩水屋敷をつくる
1894	明治27	大本営勤皇指定、明治天皇来園
		大正2	園内を観古館敷地
1913	大正2	浅野家、広島県へ縮景園など庭を中心とする
1938	昭和13	広島県へ縮景園など9ヶ所を寄付受納
1940	昭和15	広島県、浅野家よりの寄付受納　名勝指定を受ける
1945	昭和20	原子爆弾により全園、内外ともく の人的が失われる
	昭和21	園の復旧開始
1949	昭和24	再開園する
1951	昭和26	橋数に著手する
1960	昭和35	清風館の復元に著手(～1964)
1963	昭和38	悠々亭、看花榭復元
1968	昭和43	夕照庵、超然居復元
1969	昭和44	明月亭復元
1974	昭和49	管理事究所
1976	昭和51	『縮景園八勝図』長遠熙花の復元
1986	昭和61	『蕗景園七香』の遺骨発掘作業、大泉院に葬られる
1982	昭和57	原爆犠牲者の遺骨発掘作業、大量の遺骨を発見
1987	昭和62	原爆犠牲者の遺骨発掘作業、大量の遺骨を発見
1988	昭和63	緊急修理工
1994	平成6	土木作業員事務所撤去
1996	平成8	隣地の県立美術館が再開館
2020	令和2	築庭400年